

先進地

新潟市
有限会社フジタファーム

視察目的

①地域内耕畜連携循環システムの視察

報告



6次産業先進企業の藤田ファーム



藤田社長よりレクチャーを受ける

酪農部門の有限会社フジタファームで製造された良質な堆肥を有限会社米工房いわむろにて生産調整水田に散布し、

飼料用米を栽培。この飼料を受けたフジタファームの乳牛から搾った牛乳を使い、有限会社レガロにてジェラートを製造、販売する。さらにレガロでは、地元の減農薬、減化学肥料栽培を志向する契約農家からイチゴなどの季節の旬な果物、野菜を使つて季節感を大切にしたジェラートへ加工、販売をしている。



ジェラートの製造所

平成25年5月に認定を開始した「農業特区」の恩恵を十分に受け、営業を開始。しかし、行政サイドとの事務手続きに非常に時間をとられる。ジェラートは、地元の良質な素材にこだわる。PRには一切予算をかけず、原材料にできるだけ予算

をかける。



ジェラートの発券機



とことん素材にこだわった自慢のジェラート



販売店舗には、年間22万3千人の来場者(発券機の販売数にてカウンタ)毎日曜日には1000~1500人が訪れる。新しい農業形態として大変参考になった。しかし、制度の複雑さ、事務手続きのスピード感のなさなど、改善しなくてはならない点が多くあるように感じた。なんのため農業制度の緩和なのか。

考えさせられた。次世代の農業の担い手が起業しやすい環境づくりを整えるのも必要ではないか。食用米価が下落の一方で、合わせて円安の影響で輸入飼料の価格高騰もつづき、さらに担い手不足など農業全体に閉塞感が漂っているが、那須町でも新しいビジネスモデルとして参考になるのではないだろうか。



エントランスを花でおもてなし